

相模大野駅周辺のにぎわい創出に向けて 相模女子大学との連携事業を実施！

～相模大野駅前通（コリドー街）を居心地のよい空間に～

本市では、「南の玄関口」である相模大野駅周辺をさらに魅力あるまちとするため、目指す姿である「世代を超えて住む人・来る人に愛される持続可能なまちづくり」に向け、地域と連携しながら多様な都市機能や既存ストックを活用したにぎわい創出に取り組んでいます。

本年度は、相模女子大学と連携して、公共的空間の活用方法について、まちなかでの滞留時間の増加によるにぎわい創出に着目し、相模女子大学学芸学部生活デザイン学科の3年生及び4年生が企画・制作したベンチ等の作品を相模大野駅前通（「コリドー街」）に設置し、「居心地のよい空間」を創出します。

- 1 事業名称 つながる ひろがる みんなのコリドー
- 2 実施日時 令和6年11月21日（木）から11月24日（日）
11時30分から19時まで
※ 設置物は、毎日19時以降に撤去し、翌日再配置します。
※ 荒天中止。天候の状況により、実施時間が変更になる場合があります。
- 3 設置作品 別紙参照
- 4 その他 設置する作品は、誰でも自由にご利用できます。
近隣住民やコリドー街の利用者を対象にアンケートを実施させていただきますので、協力をお願いします。

お問い合わせ
南区役所地域振興課
電話：042-749-2135

設置するベンチなどの詳細



エリア①

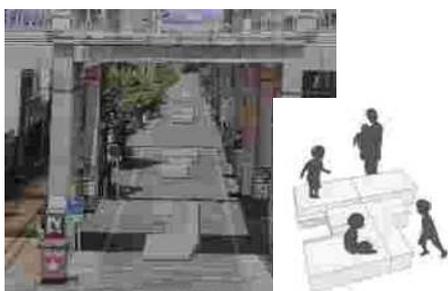


エリア②



→ 相模大野駅

← 季節の橋



作品①【ホコテン】

コリドー街が時間帯によって歩行者専用（自転車含む）であることを示すオブジェ。オブジェは自由自在に動かすことができ、子どもたちの遊び場や休息の場にもなる。



作品②【picnic seat】

歩行者専用時間中、発案者の学生がコリドー街でピクニックシートを広げたところ「車にひかれるから危ないよ」と注意を受け、コリドー街が歩行者専用であることが知られていないことから企画。芝生のような柔らかい素材を使用し、コリドー街に「居続けたいくなる」空間を演出。



作品③【街の落書き帳】

長方形の机に白紙の模造紙とペンを配置し、通行人に「相模大野への思い」を自由に書いてもらう仕掛けをつくる。自分たちの町について考えることが、よりよい町づくりの行動へつながることを狙う。



作品④【STORY to BENCH】

コリドー街にも石の椅子があるものの、発案者の学生は「冷たくて座り続けたいと思わなかった」ことから木材ベンチを考案。廃棄された椅子を活用することで、その椅子をかつて使っていた人のstoryも感じてもらうことが狙い。



作品⑤【植物を動物に】

コリドー街の一部に、日当たりがよくなく枯れてしまった木があったことから「日のあたる場所へ移動可能な木」を発案。ベンチ下部は車輪になっており、植物にも人間にも快適な環境になるように、日当たりがよいところに移動することができる。



作品⑥【「横断歩道」ってなんだろう?】

学生が、昼間なのに誰も歩いていない道を見て、横断歩道や標識が機能しているのか疑問に感じたことが発案のきっかけ。横断歩道や道路標識を、チョーク等で描き、コリドー街が時間帯によって歩行者専用（自転車含む）であることを示す。



作品⑦【Book nest (本の巣)】

コリドー街のアーケードの柱に、鳥の巣を模した本棚を設置する。商店街にある店に関する本を配架し、本を通じた店と通行人との交流を促す。今回は学生が選んだ不動産関係の本・健康に関する本・子供向け書籍などを配架予定。



作品⑧【南区と緑区をつなぐ】

相模原市の約6割は森林で、その大部分は緑区に集中し、都市化している南区でそのことを知る機会は少ない。本作品は津久井産の間伐材の丸太をそのまま活用し、森林の維持には適切な間伐が必要であることや相模原市の地域資源である森林について知ってもらうきっかけとする。

※内容については関係機関と協議中であり、併せて制作を行っています。このため、実施時には内容、仕様等が変更になる場合があります。

【相模女子大学 学芸学部 生活デザイン学科とは】

生活デザイン学科は、「建築」「ファッション」「プロダクト」「ビジュアル」の4つのデザイン領域(8分野)を自由に組み合わせることで学ぶことができ、社会から求められる「総合的なデザイン力」を養う学科です。指定された科目の単位の修得により、一級建築士やインテリアプランナーの受験資格を得ることができます。卒業生は設計デザイナー、プロダクトデザイナーなど、専門知識を生かした業種で活躍しています。



詳しくはこちら